

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0172900094 | | |
| 法人名 | 極東警備保障株式会社 | | |
| 事業所名 | グルーホーム大空 | | |
| 所在地 | 旭川市永山2条21丁目2番12号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年10月 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年11月21日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosvoCd=0172900094-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 合同会社 mocal | | |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年11月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念の「ゆっくり・一緒に・楽しく」を意識しながら、利用者様に日課にとらわれず自由に過ごしていただくことで本人の意思を尊重し尊厳を守り、一人ひとり自分のペースで過ごしていただける環境整備に努めている。
 関わりの部分では、日々の暮らしの中で生活リハビリが出来る様に、家事等の出来ることをお手伝いをさせていただいたり、一緒にレクリエーションや行事を行い、ケアスタッフとの関わりのなかで信頼関係を構築し、「楽しく」「笑顔で」「安心した」生活のお手伝いをさせていただける様に努めている。
 また、スタッフ間の連携が取れチームで機能できる様、スタッフ、管理職共に日頃から自由に話ができる環境を整備することで、施設全体での信頼関係を築けるように務め、利用者様とスタッフが共に楽しく暮らせる施設を目指している。
 昨年度から、ホーム前の畑になすび、きゅうり、ミニトマトを栽培し、収穫時は調理をし、入居者様に提供させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

| 項目 | 取組の成果 | | 項目 | 取組の成果 | |
|---|-------|--|--|-------|---|
| | ○ | ↓該当するものに○印 | | ○ | ↓該当するものに○印 |
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19) | ○ | 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) | ○ | 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20) | ○ | 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12) | ○ | 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 67 職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 68 職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「ゆっくりとしたケア」「楽しい雰囲気」「安心した生活」の理念を、毎朝「管理職」「スタッフ」共に復唱し、念を頭に入れられる様努めるとともに、介助や見守りに入る際も、個々の「尊厳」「自主性」に配慮できるように努めている。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 利用者様の地域との繋がりは、近年コロナの流行で遠ざかっているが、今年度は、永山包括主催の「RUN伴」に利用者様職員共に参加し交流を深めている。また、管理職も「地域定例会」「SOSネットワーク」に参加し地域との交流を図っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で、認知症についての資料を「町内の方」「ご家族様」に配布し、認知症の理解や接し方についてを発信している。また、認知症サポーターの受講を職員も半数近くが受けていて、今後の活動に活かせる努めている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎回、月の行事報告や、次回の行事の予定を資料に記載し、行事の報告は行っている。しかし、「町内の方」「御家族様」とも、まだ集合しての開催は希望していなく、書面での意見交換はできているが、集合での意見交換は出来ていない。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 指導監査課とは、必要時には「報告」「相談」をし、サービスの質の向上を図るよう努めている。また、知己包括とも、「地域定例会」「研修」「SOSネットワーク」「利用者様の転居」等で協力関係を築けるよう取り組んでいる。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化委員で、身体拘束をしない為に、「認知症の理解」「関わり方・対応」についての内部研修を毎月行い、身体拘束は行わないことを前提にし、日々のケアを実践している。しかし、玄関の施錠は、帰宅願望が強く出現する利用者様が玄関の付近の居室にいるので、カギを玄関横に置き対応している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日頃から、職員間での意見の交換ができ、管理職にも相談をできる職場環境を整えることで、虐待に繋がる要因を事前に防げるように努めている。また、外部研修への積極的な参加や、内部研修でも虐待防止の研修を定期的に行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員は、会社内での内部研修での勉強の機会を設けている。管理職は、成年後見制度を活用し、利用者様の生活が侵害されないよう配慮し、必要時には手続きの援助を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、必要な事項の説明をし、質問があれば説明をして納得していただけるよう努めている。また、改定や変更事項がある時には、その都度、説明をして書面での同意書も頂いている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様の要望がある時には、職員や管理職が関わり、その要望に応えられるよう努めている。また、ご家族様の要望には、「電話対応」「意見箱の設置」をし、その都度、対応できるよう努め、どうしても納得が行かない場合は、行政機関への連絡先も予め伝えていて、相談ができる環境を整えている。 | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員には、毎日の管理職との関わりの中で、意見や提案を言いやすい環境を整備して、何かあればその都度対応をし話し合っている。また、必要時には面談も行っている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理職は、取得したい資格を本社に相談し、取得できるような環境を整えてもらっている。また、職員も「介護福祉士」「ケアマネ」等の資格を取得できるよう環境整備をし、毎月の個人目標を掲げる等、常に向上心が持てるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人には、「身体拘束」「虐待」に関する研修を事前に行ってから現場に入るシステムで、現場に入ってから、必要時の管理職からの指導や、「外部研修の参加」「職場内での内部研修」で、常に技術の工場が図れるように努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | 管理職は、地域密着型会議への参加や、SOSネットワークに参加し、地域包括と連携することで、情報交換や質の向上を図っている。職員は、外部研修への参加をすることで、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

| | | | | | |
|----|--|---|---|--|--|
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス開始時は、管理職が、入所前にご家族様やご本人に、「意向」「趣味」「正確」「嗜好」等を聞き取り、職員は、そのデータを基に、積極的に関わり信頼関係の構築が出来るように努めている。 | | |
|----|--|---|---|--|--|

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所の申込の段階で、ご家族様には、なぜ入所の申込をしたのか、何に困っているのかを聞き取り、ご家族やご本人が、求めている暮らしが施設で提供できるよう関係作りに取り組んでいる。入所後も、要望があればその都度、改善できるよう取り組んでいる。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアプランの作成の段階で、ご本人やご家族の希望をプランに反映できるよう話し合いをし、必要があれば管理職からも、専門的視点からの案を出し、ご本人やご家族が必要であると話されればプランに反映させている。また、必要時は、変更し対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 自分がされて嫌なことは相手にもしない、という相手の気持ちを考え支援できるような教育をしていて、介護をするのではなく、必要な介護をさせていただいているという気持ちで接し、信頼関係が築けるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会制限があり、「ご本人の外出」「ご家族の入室」は出来ない状況で、以前のようにゆっくりと過ごすことはできないが、玄関ごしでの面会は可能で、申し出があればいつでも対面はできる環境は整えている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 19項で乗せた内容と同様で、玄関ごしでの対面はできる環境にあり、認知症状が急性期にある場合を除き、関わりが持てるように支援している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクやラジオ体操を一緒に行うことで、共同作業での関係を築きつつ、話が好きなご利用者同士は、積極的に職員も一緒に関わり、関係性が構築できるように取り組んでいる。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご利用者が退所された際は、転所の際は転居手続きの支援をし、退去後も、何か「要望」「相談」があれば、その都度、対応できるように取り組んでいる。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 意思の疎通ができるご利用者から要望があった時には、本人の意思に合わせられるように努め、意思の疎通が困難なご利用者の場合は、ご家族から意見を聞いたり、職員の日々の関わりの中での意向も取り入れながら、本人本位になるよう検討している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所以前に、ご本人やご家族に、今までの「生活歴」「環境」「趣味」等を聞き取り、入所後は、ご本人が、自宅にいた頃の環境に合わせられるように、全てのご利用者に支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 月に1回のカンファレンスを通じて、各ご利用者の「ADL」「IADL」の把握に努め、必要な介助のみを行える環境が整えられるよう努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプランを作成する際は、ご本人の「意向」「状態」「要望」を基準に考え、家族にも意見を聞き、職員にも、日々の状況を聞き取り、ご本人の現状に即したプランが作成出来るように取り組んでいる。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 特変事項は必ずケース記録に記入し、職員の誰が見ても分かるようにするよう努めている。その情報の共有を基に意見や自薦方法の話し合いを行い、日々のケアに反映出来るように取り組み、「カンファレンス」「課題分析」に活かせるよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 軽微な変化であれば、プランにないからとサービスを提供しないということではなく、その都度、「カンファレンス」をし、必要なケアであれば、柔軟にサービス内容に反映できるように取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍で大きく活動はできないが、今年度は、地域包括と連携し、地域イベントには出来る限る参加できるように取り組んでいて、RAN伴というイベントにご利用者職員共に参加している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 今現在は、元々の提携病院の医師が亡くなり、内科は2カ所の病院と提携している。また、元々の主治医がいる方はその病院を通院していて、ご本人とご家族の以降に合わせて支援している。また、かかりつけ医とも小まめに連携をしていて、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回、自施設の看護師が健康観察を行っていて、必要時には看護師より指示を受けたり、意見を求めたりし対応している。また、必要があれば、病院への受診も検討し、かかりつけ医と看護師も連携し適切な受診ができるように努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は、「病院」「ご家族」と連携するように努め、退院のメドや病状が把握できるように努めている。病院関係者とも、常時意見の交換をし、緊急時の対応が円滑になるよう努めている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | 大空では、看取りは行っていないので、看取りのギリギリまでは、施設で生活し、最終的には病院で看取りに向かっていき、医療器具が常時必要になった時は、病院の連携し医療処置が行える施設への転所も視野に入れていると、入所時に「ご本人」「家族」に必ず伝えている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の「AED」の使用は、コロナ前は年に1回行っていたが、今は出来ておらず、内部研修で「AEDの操作」「心臓マッサージ」「誤嚥時の対応」についてを適宜行っている。また、日中は看護師の配置があり、看護師も指導ができるよう取り組みを構築中である。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 非常災害時のマニュアルの作成をし、随時更新している。また、各職員にも変更時は内容を会議で伝えている。災害時の訓練は年に1回行い、緊急連絡網を回す訓練をしたり、防災品の置き場所や数などが分かるよう周知をしている。 | | |

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|----|--|---|--|--|
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者への言葉かけは、特に注意をされていて、「接遇」「コミュニケーション」などを、内部研修や外部研修で行い、ご利用者が笑顔で暮らせる環境を整備し、不適切な関わりがないように努めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 声掛けの際は、ゆっくりと回答を待ち、クローズドクエスションではなく、オープンクエスションを使うようにし、職員側が答えを誘導しないような声掛けができるように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | 施設の理念にもあり、「ゆっくり」「自分らしく」をメインとしているので、レクや行事への声掛けは行うが、ご本人が拒否があれば強制はしないよう努めている。食事も、ある程度は、ご本人の生活リズムに合わせた提供が出来るように取り組んでいる。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 意思の疎通ができる方は、自身で好きな服が着れるよう支援していて、医師の疎通が困難な方も、ご家族より、好みの服や馴染みの服を持ってきていただき、その人らしいお洒落ができるよう取り組んでいる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は、簡易調理の食事を提供していて、なかなか好みには合わせられないが、嫌いな物や禁忌の食材は代替品を提供している。また、毎月のレクでは、「焼肉」「ソフトクリーム」「どら焼き」等、皆様が美味しく食べれる物が提供出来るよう取り組んでいる。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 料理の配達先の栄養士が、バランスを考えた食材の提供を行っていて、栄養バランスは保たれている。水分量は職員が分量を把握し、必要な水分が飲水できるよう努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 今年度から、指定の歯科が年に1回の往診を施行してくれ、ご利用者の皆様全員が検診を受け、結果によってはその後「虫歯」「歯槽膿漏」などの治療を行っていただき、口腔衛生に努めている。また、ご利用者の口腔ケアも不足がある場合は、歯科衛生士より職員に指導をしていただいている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 時間でのトイレ誘導や、排泄パターンを把握するよう努め、出来る限り失禁なく過ごせるよう努め、出来るだけオムツの使用は避けられるように努めている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量の確保や、適切な食事の提供に努めている。また、それでも便秘がある場合は、医師の指示の基、刺激性ではなく非刺激性の下剤の内服をし、軟便ではなく、有形便で排泄が出来るように支援している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている | 週に2回の入浴の実施をしているが、出来る限り、個人の要望に応えられるよう努め、入浴日でない時も可能な限り、希望に答えられるよう努めている。また、可能であれば週に2回以上に入れるように取り組んでいる。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の覚醒時間を出来るだけ増やせるように支援し、夜間帯に、ぐっすり眠れるよう支援している。また、消灯時間はないので、出来る限り個々の就寝時間に合わせ支援するよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 管理職は、薬の処方の内容の把握を理解し、医師や薬剤師とも連携し、向精神薬は特に注意をし、処方の時点で原料の指示をもらうなどの対応をしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | できる方には、洗濯物を畳んでいただいたり、食器拭きをお願いしたりと生活面での役割を持てるよう支援している。また、嗜好品は、ご本人の好みの品を購入し、おやつの時などに提供している。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で、ご本人の希望に沿った外出支援はできていない。しかし、元気な方限定ではあるが、春先に近所の公園に桜を探しにいたり、外にある畑の野菜を見に行ったりと、多少の外出は行っている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 紛失の恐れもあるのでご本人が手元にお金は持つことはない。また、認知機能の低下がありお金を適切に使える方はいない。若干1名だけ、病院の受診時はご本人の財布にお金を入れて渡し、帰りに売店で買い物をして帰ってきている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は、ご本人がご家族と話したいと訴えれば、施設の電話を貸し出している。ご家族から電話がきた時もご本人に渡し話ができるように支援している。手紙に関しては、書けるご利用者はいなく支援していない。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感が持てるように、季節ごとに壁に季節が分かる貼絵を飾ったり、行事で撮った写真を張ったりし、生活感や季節感が感じられるように努めている。光の調整はカーテンで調整し、室温は温度版で、1日2回測り、適温に保てるように努めている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースや食堂の好きな場所で過ごせるように環境整備を行っていて、一人になりたい、誰かと過ごしたいというような要望があれば、再び環境整備を仕直したり、職員の介入でスペースの確保ができるよう取り組んでいる。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際に、必ず、ご家族に「馴染みの物」「布団」「衣服」「置物」などを、可能な限り持ち込むよう話をし、出来るだけ自宅に居た頃と変わらない環境が作れるように工夫をしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 「トイレ」「浴室」「居室」などは自分で理解できるような目印をつけ、車椅子の自走や、自立歩行で認知機能の低下がある方でも、自立ができるような支援ができるよう取り組んでいる。 | | |